



主日礼拝式プログラム 8:45~10:15am



お知らせ

- 礼拝後10:30am 初心者クラス(関牧師 教育館2階)、分かち合いのクラス(教育館1階)、マタイ福音書クラス(アイゾン直子、第二、第三週教育館2階) 初めての方もどうぞご参加ください。
- 延期: 本日の予定だったメディケアの説明会は、11月10日に延期されました。
- 本日10:30am~ マウカハウスについて、関牧師家族の住居についての現状説明会があります。どなたもぜひご参加ください。
- 次週の礼拝では、子供祝福式があります。どうぞ子供たちをお連れください。子供向けメッセージ、グッディバッグも用意されています。
- 次週の礼拝後10:30am~ "Let's Talk Story" みんなで色々なことを分かち合う場です。どうぞどなたもご参加ください。
- 心に光をクリスマス12月7日(土)4pm 連合聖歌隊の募集。:11月3日、10日、17日、12月1日 午後2時30分~4時 会場:マキキ聖城教会
- 延期: 12pm~1pm NHK放送「フロンティア 旧約聖書の真実」の上映は延期します。

風の吹くままに



▼今日で「祝福の源」シリーズが終了します。アブラハムの生涯を通して、私たちが祝福の源になっていくプロセスを学びました。ただ、このプロセスはすべての人に当てはまるわけではありません。神の作品である私たちは、ベルトコンベアーに載せられた既製品ではなく、一人ひとりみんな違う造られ方をするオーダーメイドです。

ただこの7つのプロセスの本質はすべての人にとっての真理です。結局のところ「信仰」なのですが、何を信じるのかが問題で「約束された方は真実な方」であると信じることです。そしてその神の真実が最も明確に現わされたのがイエスの十字架だということです。

この信仰によって歩むとき、私たちは祝福の源になっていくというプロセスに歩むようになるのです。さらに言えば、信仰もまた、神の真実によって与えられる恵みだということです。

次週からは5回に亘って「種を蒔く人」というシリーズで、イエスの種蒔きの譬えから語る予定です。どうぞお祈りください。

賛美

「初めにおられた」

「私たちは一つ」

「求めて」

「主は良いお方」

讚美画

肥田仁司

献金

牧会祈禱&主の祈り

宣教支援献金

フラ賛美 シャロンフラチーム

聖書朗読 創世記25章7節~10節 横谷直美

メッセージ 「祝福の源として⑧ 幸せな晩年」

関真士牧師

賛美 「主は私を守る方」

頌栄

主の祈り

報告

会堂礼拝とオンライン礼拝が、主の御霊によって

一つとされ共に主を礼拝いたしましょう。

献金



関真士牧師

sekishinji89@gmail.com

2024年度聖句 1ペテロ4章10節

それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい。

スモールグループの心得

心を傾けて聴こう、理解しよう、共感しよう。教えない、否定しない、批判しない。そのままを受け入れましょう。



分かち合いのポイント

①「縁起でもない」は、確かに一理あります。しかし、その「縁起」を超える「福音」があります。そのことを確認しましょう。

②神の友は、天の父が何をしてくださったかを知っています。あなたは、そのことを知っていると言えますか。

③あなたは人生の汚物と言えるような酷い経験は、豊かな実を結ぶ肥しに変えられているでしょうか。

創世記25章7節～10節

以上がアブラハムの生きた年月で、百七十五年であった。アブラハムは幸せな晩年を過ごし、年老いて満ち足り、息絶えて死んだ。そして自分の民に加えられた。その息子、イサクとイシュマエルは、アブラハムを、マムレに面するマクペラの洞穴に葬った。これは、ヒッタイト人ツォハルの子エフロンの畑地にある。アブラハムがヒッタイト人たちから買ったあの畑地である。アブラハムと彼の妻サラはそこに葬られた。地に落ちた。すると芽生え、育って実を結び、三十倍、六十倍、百倍になった。」そしてイエスは言われた。「聞く耳のある者は聞きなさい。」

引用聖句

創世記23章19節

ヤコブ書2章23節

ヨハネ15章12節～15節

詩篇121篇

ホノルルキリスト教会

2207 Oahu Avenue, HONOLULU, HI 96822

日本語部 事務所 ☎ (808) 973-4335

Email: office@honoluluchristian.church



ホノルルキリスト教会2024年10月20日

週報



詩篇103篇1節～2節

わがたましいよ 主をほめたたえよ。わたしのうちにあるすべてのものよ 聖なる御名をほめたたえよ。わがたましいよ 主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。